

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道45号 <small>もとよしけせんぬま</small> 本吉気仙沼道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点 自：宮城県気仙沼市本吉町字九多丸 <small>けせんぬま もとよしちよう くだまる</small> 至：宮城県気仙沼市松崎高谷 <small>けせんぬま まつぎき たかや</small>				延長 7.1km
事業概要 三陸縦貫自動車道は、宮城県仙台市から岩手県宮古市までの三陸沿岸地域の各都市を結ぶ、延長約220kmの高規格幹線道路である。 本吉気仙沼道路は、三陸縦貫自動車道の一部を形成し、気仙沼市本吉町字九多丸から気仙沼市松崎高谷に至る延長7.1kmの自動車専用道路である。				
H18年度事業化	H18年度都市計画決定 (H一年度変更)	H20年度用地着手	H21年度工事着手	
全体事業費 201億円		事業進捗率 56%		供用済延長 - km
計画交通量 15,200台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.0 (残事業) 6.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 65億円/217億円 (事業費：42億円/194億円 維持管理費：23億円/23億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 426億円/426億円 (走行時間短縮便益：343億円/343億円 走行経費減少便益：49億円/49億円 交通事故減少便益：34億円/34億円)	基準年 平成25年
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.6~2.3(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.8~2.1(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.7~2.2(事業期間±3年)				
感度分析の結果 【残事業】 B/C=5.5~7.6(交通量 ±10%) B/C=7.0~7.2(事業費 ±10%) B/C=6.3~6.8(事業期間±1年)				
事業の効果等 ①物流効率化の支援 ・気仙沼市から仙台市・関東方面への生鮮かつお(生産量：19,205t/年)の流通の利便性向上が見込まれる ②国土・地域ネットワークの構築 ・新たに気仙沼市から石巻市(現況100分)を高規格道路で連絡するルートを構成する ・気仙沼市から石巻市(現況100分)へのアクセス向上が見込まれる ③安全で安心できるくらしの確保 ・気仙沼市から石巻赤十字病院(現況91分)へのアクセス向上が見込まれる ④災害への備え ・緊急輸送道路である国道45号を代替する道路(気仙沼市本吉町九多丸～気仙沼市松崎高谷)				
関係する地方公共団体等の意見 ○宮城県知事の意見 ・「対応方針(原案)」案のとおり継続で異議ありません。 なお、対象事業は、本県の東日本大震災からの復旧・復興を果たす上で非常に重要な路線でありますことから、コスト縮減にも十分配慮しながら、本県の重点施策である「防災道路ネットワークの構築」に向け、早期完成を図っていただきますよう、よろしくお祈りいたします。 ○以下の団体等から、本吉気仙沼道路の整備促進について要望あり ・気仙沼・本吉地方リアス・ハイウェイ女性の集い委員会 (南三陸町婦人団体連絡協議会、本吉町婦人団体連絡協議会、他14団体) ・気仙沼・本吉地方三陸縦貫自動車道事業化促進期成同盟会(気仙沼市長、南三陸町長) ・三陸縦貫自動車道・アクセス道路建設促進期成同盟会(石巻市長、東松島市長、女川町長)				
事業評価監視委員会の意見 ・対応方針(原案)どおり「継続」が妥当である。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・事業進捗率56%(うち用地進捗率94%)				

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない。

施設の構造や工法の変更等

- ・再生資材（再生砕石、再生アスファルト合材等）を活用し、コスト縮減を図る。

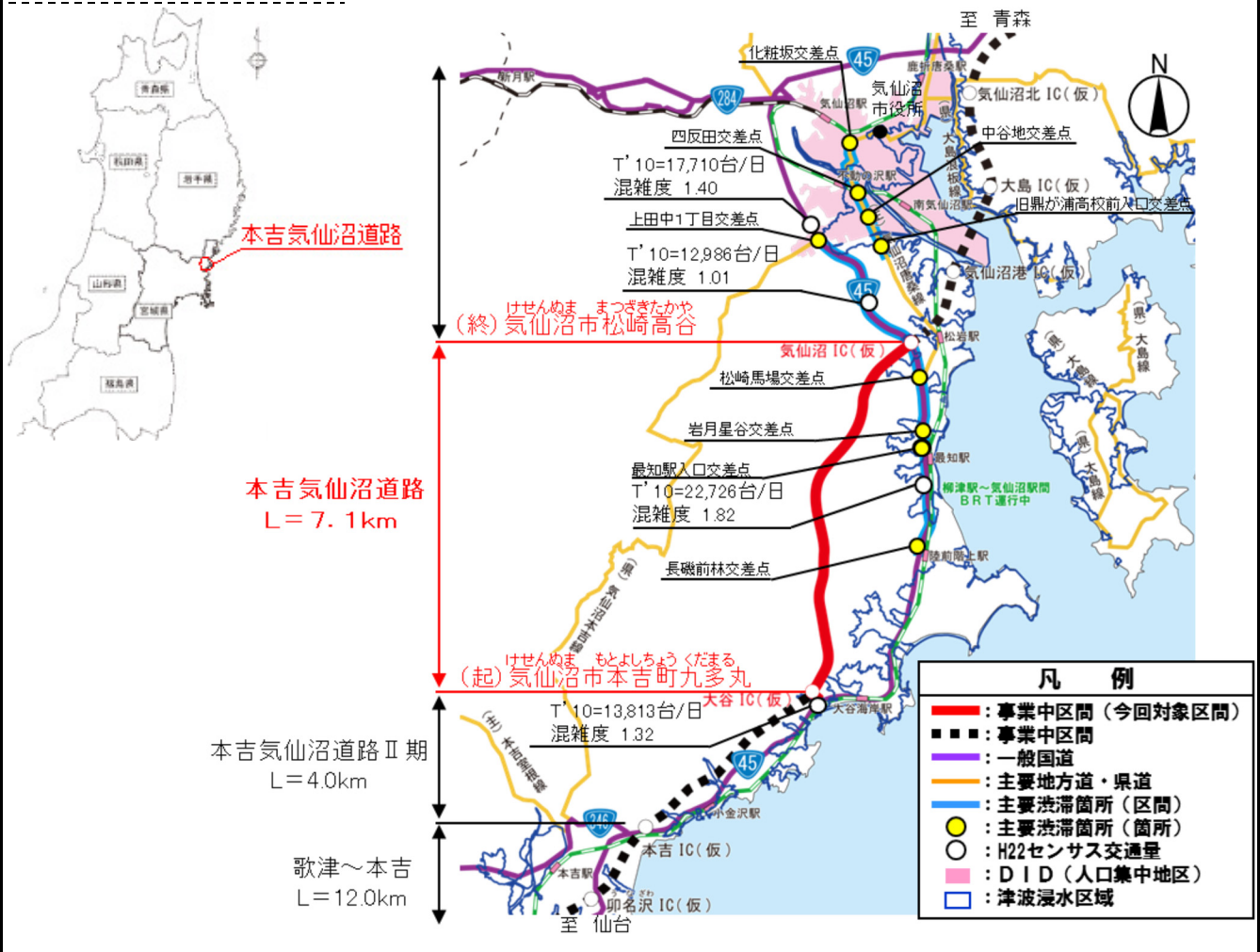
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。